
食糧危機からあなたと家族を守る金貨貯金



金銀の貯金推進協会

目次

| | | |
|-------------------------|---|----|
| はじめに | … | 2 |
| 1.日本の借金は1000兆円 | … | 4 |
| 2.そして日本の借金はふくらみ続ける | … | 5 |
| 3.銀行に預金者が殺到するとお金を引き出せない | … | 6 |
| 4.現金という幻想 | … | 7 |
| 5.深刻な世界の環境問題 | … | 8 |
| 6.外国人から買われる日本の領土 | … | 9 |
| 7.日本の環境問題も深刻 | … | 10 |
| 8.輸入に頼る日本の食糧事情 | … | 11 |
| 9.水・食糧が武器になる時代 | … | 12 |
| 10.“円”の価値で物価が決まる | … | 13 |
| 11.日本に食べ物がなくなる日 | … | 14 |
| 12.金貨貯金があなたと家族を守る | … | 15 |
| 13.“金”は不況に強い金融商品 | … | 16 |
| 14.金の歴史は6000年 | … | 17 |
| 15.金を持つ五つの理由 | … | 18 |
| 最後に | … | 20 |

はじめに

日本は豊かな国だといわれていますが、日本の借金は1,000兆円を超えています。これは国民一人当たり792万円の負担があることになります。

国税庁の民間給与実態統計調査（平成23年）によると、サラリーマンの平均年収は409万円ですから、年収の約1.9倍の借金をしていることになります。

日本の借金の借入先は、外国からではなく自国通貨建てなので日本の財政が破たんすることはないという人もいますが、その調達先を突き詰めれば私たちの預金なのです。

日本の借金は年々増えています。その分、私たちの大切な預金が減っているということになります。

日本の金融資産は1,571兆円（借金を差し引いた実質金融資産は1,207兆円）といわれていますが、このまま借金が増え続けて、日本の借入金金融資産を超えてしまったら、私たち国民の生活に大きな影響があることは間違いありません。

私たちの生活に不可欠な燃料や食料は輸入に頼っています。特に食糧は年間5,500万トン輸入しているのです。もし、日本で食糧の輸入がストップした場合、1年後には3,000万人が餓死すると試算されているのです。（「NHK特集 輸入食糧ゼロの日」1978年）

また、世界的には食糧は不足しています。私たちのように、食べるものがいっつも十分手にはいるのは、世界のおよそ2割の人だけなのです。

そして万一、日本の財政が破たんし、日本円の価値が暴落した場合、食糧輸入は確実にできなくなることは容易に想像できます。

日本の財政が破たんした場合、ハイパーインフレとなり、食料価格が高騰し、今までのように食料を買うことができなくなることからです。

“飽食”といわれていたのが一転、“飢餓”の状態になるのです。

「そんなバカなことはない」

「心配しすぎだ」

と、思われる方もいらっしゃると思いますが、全く可能性のない未来ではありません。

日本の経済破たん、食糧危機からあなたやご家族を守るための一つの方法が、あなたの資産の一部を“金貨”で貯蓄することです。

金は5500年前から装飾品や通貨として使用されていただけでなく、

- ・ 金は無価値にならない
- ・ 世界中どこでも換金できる
- ・ 長期的に価値が上昇する
- ・ 金はインフレに強い
- ・ 金は燃えない・変質しない

という特長があります。

日本円の価値が下がっても、世界的に金貨の価値が下がることはないということです。そして、通貨として食料を買うこともできるのです。

また、このまま日本の財政が破たんしなかったとしても、ご自身の資産はそのまま残ります。

この小冊子は、日本の現状を悲観的にとらえ、読む人の不安をかき立てることを目的としたものでは決してありません。

日本の現状を正しく理解したうえで、どのような状況になったとしても、あなたとご家族の大切な生活や資産を守るための一つの方法をお伝えするものです。

この小冊子をお読みになった方が、『金貨預金』の重要性をご理解いただければ幸いです。

1. 日本の借金は1000兆円

「やれやれ、やっと住宅ローンを完済できたな。
これからは、お前と悠々自適な生活を楽しめるな」

「あなた何を言っているの。
うちは四人家族だから、借金が約三二〇〇万円あるのよ」

「え？」

2013年6月末現在で、日本の国債と借入金、政府短期証券をあわせた「国の借金」の残高が1,000兆円を超えたと、金融庁から発表がありました。

これは、国民一人当たり792万円という金額となります。

日本の借金は、自国通貨建てなので日本経済が破たんすることはないという説があります。つまり、日本でお金をどんどん造れば、借金は返せるというわけです。

しかしその結果は、ハイパーインフレと大增税となるのです。

また、日本の金融資産は2012年度末（3月末）に1,571兆円（家計の金融資産から負債を引いた純資産は1,207兆円）ありますから、差し引きすれば黒字だという説もあります。

日本の金融資産のうち、家計金融資産の現金・預金が848兆円ですから、日本の資産の大部分は、国民の個人資産だということになります。

つまり、1,000兆円を超えた日本の借金を返すためには、お金をどんどん造るか、私たちの個人資産を使うしかないということになるのです。

2.そして日本の借金はふくらみ続ける

「あなたの毎月のお給料は43万円でしょ」

「そうだね」

「でも、毎月必要な生活費は103万円なの」

「足りない分はどうしているんだ？」

「子供たちから借金しているわ」

「それじゃあ、借金が増えるばかりじゃないか！」

日本の一般会計の歳出（国家予算の支出）は103兆円です。

一方、収入に当たる税収は43兆円しかないため、103兆円の支出の大部分を国債という借金で補っています。

国の収入の基本は税金であり、不足分は借金（国債発行）をするしかありません。

平成25年3月での日本の借金は1,240兆円あり、日本の税収の29年分の借金となります。

この借金（国際）は、期限が来たものから利子を付けて返済しなければなりません。

そのため、見えている借金の金額以上に国債を発効し、その新しい借金で借金を返すという自転車操業をしているのが日本の現状なのです。

高度経済成長を掲げ、1966年以来建設国債、赤字国債を発行してきた結果が、これだけの借金となっているのです。

現在の公共事業を主体とした経済政策は、借金が蓄積され、増え続ける仕組みなのです。

3.銀行に預金者が殺到するとお金を引き出せなくなる

「今日、銀行に行ったんだけど、すごい人だったわ」

「何かニュースが流れていたな」

「途中でお金の引き出しできなくなったのよ」

「えっ、明日からどうするんだ」

日本の借金（国債）の大部分は、銀行、生保、郵貯などの金融機関や大手企業、個人投資家など、国内で消化されています。

もし、日本の借金がこのまま増え続け、返済不能（債務不履行）になったら、私たちの生活に大きな影響があります。

最悪の場合、「国民の預金はすべて凍結（預金封鎖）、半分は召し上げ」、「国家予算は半減」、「消費税はいきなり20%越え」、「公務員半減、教員の給与半減」となるという説もあります。

これは大げさだとしても、国際化がすすんだ現在では、外国のどこかの国が債務不履行になれば、日本にも大きな影響があるのです。

実際に債務不履行にならないとしても、「日本が危ない、銀行預金が封鎖される」とう風評が立てば、人々は銀行に殺到します。

その場合、自分自身の預金であっても引き出しができなくなる可能性があるのです。

銀行は、私たちが預けたお金を運用して利益を出しています。預かった現金をそのままストックしているわけではないからです。

銀行からお金を引き出せなければ、今日の生活費にも困るということになるかもしれません。

4.現金という幻想

「一万円札の原価は“22.2”円なんですって」

「え～、一万円は一万円だろ」

私たちが普段使っているお金の原価（モノを作る時にかかる経費）は、

- ・千円札＝14.5円
- ・五千円札＝20.7円
- ・一万円札＝22.4円

だそうです。

この価格で印刷した紙を使い、私たちモノを売り買いしているのです。

お金の価値は、他の人がお金と認識して受け取ってくれることで成り立っています。

別の見方をすれば、「お金＝国家への信用」ということになります。

そして、お金の価値が崩壊した例は、歴史上たくさんあり、歴史をみれば、マネーは国の「信用」に依存していることは間違いありません。

逆にいえば、国の信用が失墜すれば、その国のお金の価値も暴落してしまうのです。

高齢者がしている「タンス預金」は、太平洋戦争の辛い体験から、銀行を信用せず、現金を家に隠し持つことで資産を守っている という意味もあるのだそうです。

5. 深刻な世界の環境問題

「ねえママ、“ちきゅうおんだんか”ってどういうこと？」

「地球の平均気温が高くなることよ」

「気温が高くなるとどうなるの？」

「森がなくなったり、絶滅する生き物が増えるのよ」

「私たちは生きていられるの？」

世界各国の財政以上に深刻なのが、地球の環境問題です。

具体的には、「地球温暖化」「人口増加」「エネルギー枯渇」「水資源の危機」「酸性雨」「食糧問題」「生物種の絶滅」「森林破壊」「オゾン層の破壊」「ゴミ問題」などです。

特に「地球温暖化」は、単に地球の気温が高くなるということだけでなく、

- ・ 生物の移動による生態系の変化
- ・ 海面が上昇し、海拔の低い土地が浸食される
- ・ ゲリラ豪雨などの異常気象が多発する
- ・ 水資源の被害
- ・ 異常気象により食料生産への被害

など、非常に大きな被害が起きることが予測されています。

植物への影響については、森林の消滅や生物種の絶滅などが予測され、50年後にはアマゾンの森林は砂漠化するといわれています。(イギリス政府報告)

地球温暖化は、生態系を狂わすだけでなく、世界的な食糧不足の一つの原因ともなっています。

6.外国人から買われる日本の領土

「ママ、あそこで遊んできてもいい？」

「あの土地は、外国の人が買ったから入れなくなったのよ」

「え～」

林野庁の発表によると、平成18年1月から平成24年12月の7年間で、外国企業や外国人による国内の森林買収は計801ヘクタールに上っています。

これは、東京ドーム約170個分に相当する広さとなります。

外国資本が日本の森林を購入しているのは、

「中国の金持ちの間で、日本のヒノキや杉を使った住宅建築が静かなブームになっている」

ということを表向きの理由に、ヒノキや杉などの高級木材を山林ごと購入しているとなっています。

しかし、新聞やテレビでも数多く報じられているとおり、真の目的は、

「深刻な水不足や水質汚染を背景に、中国資本が日本の水源林を狙っている」

ためといわれています。

また、自衛隊や海上保安庁の施設など、安全保障や治安維持に関わる場所に隣接する土地を、中国資本が購入したケースも報告されています。

7.日本の環境問題も深刻

「ねえママ、これは食べても大丈夫？」

「これは大丈夫よ」

「やったー」

「安心して食べることができる食べ物が減ったわね」

地球温暖化の問題は、日本でも例外ではありません。

2013年9月2日に、気象庁から「平成25年（2013年）夏の日本の極端な天候について～異常気象分析検討会の分析結果の概要～」という発表がありました。

そこには、2013年夏の日本の天候は、気温、大雨、少雨などで、極端な天候となったことが書かれています。地球温暖化との関連性は明記されていませんが、その原因は、海面水温の変化が原因であったと分析されています。

日本の場合、異常気象以上に深刻なのが放射能汚染の問題です。

中部大学の武田邦彦氏は、『あまり神経質になる必要はない』と前置きしながらも、

「外食の米、露地栽培のキノコ、神奈川から宮城までの太平洋側の都県の川魚、神奈川から北海道までの太平洋側の魚は買わない方がよいでしょう」

と、ご自身のホームページに書いています。

異常気象や放射能汚染により、農産物や海産物など、私たちが安心して食べることができる日本産の食糧は確実に減っているのです。

8.輸入に頼る日本の食糧事情

「このお米は、アメリカ産。このお魚は、カナダ産。このお野菜は、メキシコ産。私たちの食べ物は、いろんなところから来ているのね」

「ママ、外国が食べ物を売ってくれなくなったどうなるの？」

「さあ、どうなるのかしら？」

私たちは日本人の食生活は、第二次世界大戦前と比べると大きく変わりました。

例えば、肉や卵を食べる量は10倍になり、えさとして使う穀物の量も急増しています。また、砂糖や植物油（ヤシ油）などのプランテーション作物を大量に輸入するようになりました。

もし、日本の食糧輸入が途絶した場合、1年後には3,000万人が餓死すると1978年に試算されています。（「NHK特集 輸入食糧ゼロの日」 1978年）

昭和50年頃の食料自給率（カロリーベース）は約40%でしたが、平成24年度には27%になっています。

もし、食糧輸入が途絶した場合には、3,000万人をはるかに超す餓死者が出るのが推測されます。

世界では、飢餓が原因で1日に4～5万人（1年間に1,500万人以上）の人が亡くなっており（FAO発表）、そのうち7割以上が子どもたちです。

日本は飽食の国といわれていますが、その生活を支えているのは、食糧輸入なのです。

9.水・食糧が武器になる時代

「ママ、おなか減ったよ」

「お金があっても、買える食べ物がないのよ」

「おなか減ったー」

地球温暖化の最大の問題は、世界的に水や食料が不足してくることです。

2025年には世界人口の大半にあたる約50億人が水不足になると予測されています。

また、今後100年以内に、中国で米の収穫は8割減、ブラジルやインドでは小麦などの収穫が大幅に減少するなど、深刻な食糧不足が警告されています。（国連IPCC報告）

すでに干ばつや洪水が多発しており、こうした水不足や食糧危機の兆候が現れ始めています。

異常気象が増えてくれば、水・食糧確保は大切になります。外国資本により、日本の水源林が購入されているのは、このような将来予測が原因と考えられています。

日本の食糧は外国の輸入に依存しています。

もし、世界で異常気象が起きて食糧が不作になった時、輸出国は自国優先で日本に食糧を輸出してくれなくなります。場合によっては食糧輸出を条件に日本領土を要求してくるかもしれません。

そうなれば、食糧は武力、武器と同じことになるのです。

10. “円” の価値で物価が決まる

「何で、1ドル100円から120円になったのに “円安” っていの？」

「1ドルが100円で買えていたのに、今は120円必要になった。
つまり、円の価値が下がった（安くなった）ということだよ」

「なるほど」

「円安」「円高」という言葉を良く聞きます。

「円安」「円高」のメリット・デメリットを整理すると、

〈円安のメリット〉

- ・ 外貨商品で外貨を買っていると儲けやすくなる。
- ・ 輸出企業に有利な状態となる。
- ・ 通貨価値の下落によりデフレ圧力が緩和される。

〈円安のデメリット〉

- ・ 物価が上昇しインフレ懸念が出てくる（モノの価格が高くなる）
- ・ 海外旅行やブランド商品などの値段が上がってしまう。
- ・ 海外から資材を購入している輸入企業の業績が悪化する。

となります。

「円高」の場合のメリット・デメリットは、これとほぼ逆です。

私たちの生活に直接関係することでは、円安になれば輸入品の価格が上がり、円高になれば価格が下がる。ということです。

食糧の大部分を輸入に依存している日本では、円安になると食品の価格が上がります。その分、私たちの家計に影響することになるのです。

1 1.日本に食べ物がなくなる日

「ママ、おなかへったよ」

「昔は、捨てるほど食べ物があったのにね」

日本の食品の半分以上は、世界から輸入したものです。

私たちは年間5,500万トン以上の食糧を輸入しながら、年間約1,700万トンの食品を廃棄しています。

しかもこのうち、食べられるのに廃棄される食品、いわゆる「食品ロス」は年間約500～800万トン（農林水産省 平成22年度推計）にもなります。

これは、米の年間収穫量（約813万トン。平成23年水稻の主食向け）に匹敵する数量なのです。

世界的にみれば、食料は減産しています。たとえば、2001年の世界の穀物在庫量は約6億トン（約100日分）でした。

しかし、猛暑・干ばつなどの異常気象、さらに、新興国での食肉消費の増加などの影響で、在庫は減少し、2011年の在庫量は4.5億トン75日分）まで低下しています。

食料の大部分を輸入に依存しているにも関わらず、日本の食料備蓄は数ヶ月分しかありません。

万一、食料輸入がストップした場合、数ヶ月で私たちの前から食料が消えてしまう可能性が高いのです。

1 2.金貨貯金があなたと家族を守る

「どうしてお金があっても、食べ物が買えないの？」

「ものすごく高くなってしまって、今のお金では買えないのよ」

「お隣さんが“金貨”なら、今まで通り買えるって聞いたよ」

「うちも金貨貯金しておけばよかったわ」

日本の借金は年々増え続けています。現在は債務額（国債発行額）に対して、金融資産が上回っているから安心だと思われていますが、このままの状況だと、負債額が資産を上回るのも時間の問題です。

仮に、日本の財政が破たんし、日本国債の買い手がいなくなったとしたら…、

日本円が売り叩かれ、円安により輸入物は価格が上昇し、金利が急上昇してインフレになります。

これは、最悪のシナリオですが、可能性がまったくない話ではありません。

また、日本が財政破たんしなくても、他の国の財政破たんの影響を受け、最悪のシナリオに近い状態になることも考えられます。

最悪の場合、銀行に預けている私たちの大切なお金（現金）が紙くず同然の価値になることもありうるのです。

以上は確率の問題ではありますが、万一来るに備え、あなたとご家族の生活を守るための一つの選択肢が、「資産の一部を“金貨預金”として保有しておくこと」なのです。

13. “金”は不況に強い金融商品

「不況になって、株や債券が暴落してしまったわ」

「金価格だけは下がらなかったわね」

「不況になると“金”の価格は上がる傾向にあるからね」

金は株や債券と違って、配当や利息を生む金融商品のように、安定的な収入が得られるわけではないので、年金代わりには不向きだと思われがちです。

しかし、リーマンショックで世界中の株や債券が暴落したときも、金価格は底が抜けず、むしろ、その後の米国の量的緩和によって価格が大きく上昇しました。

この事実が金に対する信頼感を強めました。

また、今後急激なインフレが進行したとしても、インフレに強い金を資産の一部として保有しておけば、資産価値の目減りを抑えることができます。

資産の一部を金で保有する場合、将来的に換金することを考えれば、金の装飾品ではなく、インゴッド（塊）や金貨で保有する必要があります。

なぜならば、金は、その地金の状態で金額が変わるからです。装飾品の場合は、デザイン料や加工の手間賃が含まれた価格で販売されているため、買い取りの時に価格が大きく下がる可能性があるからです。

14.金の歴史は6000年

「金は6000年前から装飾品として使われていたのよ」

「そんな昔から金は貴重な金属だったのね」

金は、世界で始めて貴金属として扱われ、装飾品に使われてきました。古代シュメール人が紀元前3500年頃、すでに金装飾を用いていたという話もあるくらいです。

●古代エジプト

歴史上最も有名だと思われるものは、ツタンカーメン王の黄金のマスクだと思います。ファラオの時代から「金は高価で尊いものである」として珍重されました。

●中世ヨーロッパ

基本的に、金というのはいつでも不足していて、希少性の高い金属です。そこで中世ヨーロッパでは他の金属から金を生み出す研究が盛んに行われました。これが有名な錬金術というものです。

●アメリカ

新天地で夢をつかむために、1849年をピークにゴールドラッシュがありました。

●現在

金の用途の大半は宝飾品ですが工業用としての用途も多く、将来的にも需要が高まると考えられています。

15.金を持つ5つの理由

「20代、30代の人で“金”を買う人が多いのよ」

「金貨預金が当たり前の時代になったんだね」

将来のことを正確に予測することはできませんが、明るい未来であっても、暗い未来であっても、ご自身とご家族の生活は守っていかねばなりません。

金貨貯金は、大切な資産を守る一つの方法です。

外国では結婚指輪や新郎から新婦へのプレゼントとして、“金”の装飾品を贈ることは常識です。

日本でも、大正生まれの女性たちは、マリッジリングとして「金のカマボコ」と呼ばれる太いリングを好みました。

これは、世の中がどのように変わったとしても、金製品を身につけていればどこでも生きていけるという考えがあったからだと考えられます。

現在でも、金を保有するというとは、次のメリットがあります。

●金は無価値にならない

これは、金特有の希少性からきています。

金は金貨や宝飾品以外にも、工業製品にも多く使われています。しかし、これから発掘されるものを含めても、世界の金の総量は、長さ50メートル×幅25メートル×深さ2メートル プール4杯分しかありません。

それだけ希少性が高く貴重なモノですから、将来的に金の価値がなくなることはないのです。

●世界中どこでも換金できる

海外への長期滞在、永住者を含めた海外在留邦人数は、平成12年に81万人だったのに対し、平成22年には114万人になり、年々増加傾向にあります。（外務省 海外在留邦人数調査 平成23年度より）

金は、世界で通用する資産であり、世界中どこでも換金できます。海外で生

活をする場合、資産の一部を金で保有しておけば、その国の財政が不安定になっても、生活を守ることができます。

●長期的に価値が上昇する

現金を銀行に預けたり、株や債券で運用する場合と比べ、金を保有するデメリットは、金利や配当が付かないということです。

しかし、金はそれ自体に価値があることから、

政治・経済が不安定になっても影響されることは少ない。不景気、経済不安になり、株や債券の価格が下がったとしても、金の価値が下がることはない（逆に上がる）。

といわれています。

また、10年、20年といった長期的な視点で考えた場合、金は価格変動に強く、価格が高くなる傾向にありますから、金を保有することは本当の資産形成だともいわれています。

●金はインフレに強い

デフレが続く日本ですが、いずれインフレに変わるといわれています。

インフレになれば、現金の価値が下がりますから、現金をモノに交換したほうがよくなります。その時に、現金に再交換が容易な金の価値が高まります。

これが、金はインフレ耐性が強いといわれている理由です。

●金は燃えない・変質しない

金は高熱であぶられても、融けるだけです。そして、融けても金は金です。

また、金は錆びたり、変質しない特性があります。

金の価値は、形状ではなく素材にあり、「金の価値 = 金の重量」となるので、融けたとしても、価値が変わるわけではありません。

金が古代から現代まで、その価値を失わなかった理由の一つに、金の普遍性があるのです。

最後に

この小冊子を最後までお読みいただき、ありがとうございます。

この小冊子では、日本の財政破たん、ハイパーインフレ、食料危機という、日本の将来について書かせていただきましたが、冒頭で述べたように、日本の未来に対して、いたずらに不安をあおったり、悲観的に考えているわけではありません。

将来のことは、最悪の場合を想定して準備することが、自分自身やご家族の生活を守るために必要だということ。

その準備の一つの手段として、資産の一部を金で保有することが大切であること。

その二点をお伝えしたかったのです。

私が金のビジネスに興味を持った背景には、二つのエピソードがあります。

私の父は金貨や銀貨の収集が趣味で、天皇陛下のご成婚記念金貨や在位記念金貨を集めていました。

私が子供の頃、父が私の手にのせてくれた十万円金貨はずっしりと重く、今でも印象深い思い出として残っています。その経験から、コインに対する興味がどんどん膨らんでいったのです。

もう一つは、社会人になって、長野県佐久市の実家に帰省した時に、手土産にお菓子や果物、洋服を買っていても喜ばなかった父が、メープル金貨を手土産に持ってゆくと、初めて嬉しそうな表情を見せてくれました。

そのような体験が、金ビジネスを始めるきっかけとなっているのです。

この小冊子をお読みいただき、金を持つ意義をご理解いただいたとしても、「金を購入する」ことに敷居の高さを感じる方も多いことと思います。

金を身近に感じていただき、手軽に購入していただきたいと考え、弊社では『金貨・銀貨の自動販売機』の開発を行いました。

この『金の自動販売機』は、世界初の取組みということで、テレビや新聞、雑誌など、多くのメディアに取り上げていただいています。

ご興味ありましたら、店舗（「金銀の貯金箱」）にありますから、お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

（住所：東京都中央区八丁堀三丁目六--一京橋長岡ビル）

また、金のことやご購入のご相談は、お気軽にご連絡ください。

（電話：03-3553-6311）

（メール：info@spacein.jp）

（ホームページ：<http://www.spacegold.net>）

この小冊子の内容が、皆さまのより豊かな生活をおくるためのヒントになることを願っています。

金銀の貯金推進協会
代表 六川 牧志

◆著者プロフィール

六川 牧志（ろくかわ まきし）

金銀の貯金推進協会 代表

スペースインターナショナル株式会社 代表取締役

1975年 長野県生まれ。野沢北高校卒業

Auckland institute of Technology 卒業

2001年10月 東京都江東区有明に有限会社設立

2003年 ペンドライブ（ボールペンにフラッシュメモリーを組み込んだアイデア商品）発売開始

2004年5月 スペースインターナショナル株式会社に組織変更

2006年 業務拡大のため東京都中央区八丁堀へ移転

2010年 純金コイン、アクセサリー、置物の通信販売開始

2011年 純金自動販売機を企画開発、純金販売のサービス開始

2014年1月 純金コイン、アクセサリー等の直売店「金銀の貯金箱」開店

PenDrive（ペンドライブ）は、発売の2003年から現在まで、広告宣伝用品として、ギフト市場、広告市場において安定的な売上をあげています。

また、デジタルフォトフレーム、携帯電話のソーラーチャージャーなど、時代を先取りした新しい商品やサービスを企画し、実現してきました。

2010年からは世界情勢をふまえ、純金の通信販売、直売を開始しました。今後は店舗販売を強化し、金銀貯金をより身近に感じていただけるような活動を推進してゆきます。

<連絡先>

金銀の貯金推進協会

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 3-6-1 京橋長岡ビル

T E L 03-3553-6311 F A X 03-3553-6315

<http://www.spacegold.net>

平成25年12月初版発行<検証省略> 定価 1,000円<税込>

©2014 Space International Inc, All Right Reserved